

令和5年度 後期日程 公共政策学部 小論文 出題意図

【一】

問一〔20点〕

問題文を正しく理解し、問われたことについての確かかつ簡潔に記述することを求める、基礎的読解力を問う問題である。患者を疾病から守ることよりも、医療者を訴訟から守ることが強く意識されたものである点について、明確に記述していることが評価のポイントである。

問二〔100点〕

「防衛医療」が指す内容を的確に理解し、それが行われる背景を踏まえた上で、受験生自身の考えを明確かつ論理的に記述することを求めている。読解力に加えて、論理的思考力と記述力を問う総合的問題である。筆者が示す「防衛医療」とその背景についての的確な理解ができていること、そして「防衛医療」についてその是非を明らかに示した上で、受験生自身の考えを論理的に述べていることが評価のポイントである。

【二】〔130点〕

ここでは、1.日本における業種別労働生産性指数と ICT 投資額の推移の特徴、2.DX の課題について問うている。産業別に労働生産性と ICT 投資額の関係性から見た特徴を整理した上で、DX を推進する上で克服すべき課題について各データ(図)を読み取りながら、明確に記述していることを評価のポイントとする。特に、図表から読み取れる背景について総括がおこなわれている場合(つまり、各論だけではなく、総論やまとめがある)には高く評価する。

【三】

問一〔40点〕

この問題は、本文の各所で言及されている「専門知の死」の状況と危険性について読み取るとともに、それらを的確に要約する力を問うものであった。

大量に情報があふれる時代であるにもかかわらず、専門家の知識が一般の人から軽視・敵視され、両者が断絶している状況にあること、また、それにより社会問題に対する科学的・合理的な判断や新しい知を生み出す営み、人々の学ぶ姿勢などが脅かされる危険があることを、どの程度正確にまとめることができているかを評価した。

問二〔110点〕

この問題は、特定のテーマに対する自分の考えについて、関連情報を適切に示しながら論理的・説得的に記述する力を問うものであった。

「専門知」をめぐる専門家と一般の人々の関係についてどのような意見を持っているかにかかわらず、自分の考えを論じるのにふさわしい日本の事例を提示できているか、著者の見解をきちんと理解し参照できているか、および、論理の筋道が通っていて説得力のある文章で自分の意見を記述できているかを評価した。